

『やくならマグカップも』事例の可能性と課題について

多治見市産業観光課主事 井戸 綾音

岐阜県多治見市を舞台としたマンガ・アニメである『やくならマグカップも』は令和5年7月現在、フリーコミック36巻の発刊、アニメ2期の放送を終えている。多治見市内における『やくならマグカップも』の聖地には、聖地巡礼をするファンの姿が見られるようになり、研究機関や他自治体などが視察に訪れるなど、コンテンツツーリズムの一例として注目を浴びている。本レポートでは、『やくならマグカップも』の事例における、その可能性と課題について地方自治体に所属する筆者の観点から分析し、述べる。

本レポートでは、マンガ・テレビアニメ『やくならマグカップも』について、①マンガ『やくならマグカップも』誕生・テレビアニメ化の経緯と地域性について、②『やくならマグカップも』振興における体制について、③マンガ・テレビアニメを活用することの可能性と課題について述べる。『やくならマグカップも』とは、岐阜県多治見市を舞台とし、多治見市に引っ越してきた主人公豊川姫乃が地場産業である美濃焼の作品や作陶の魅力に引き込まれ、友達と共に高校生活を送る青春ストーリーである。当作品は2010年に株式会社プラネットより構想が始まり、2012年に同会社より第1号のフリーコミックが東京、名古屋、大阪に配布され、2021年4月にはテレビアニメ第1期が放送、同年10月に第2期が放送された作品である。フリーコミックについては2023年7月現在でも発行され続けている。

1 マンガ『やくならマグカップも』誕生・テレビアニメ化の経緯と地域性について

本節では、マンガ『やくならマグカップも』誕生・アニメ化の経緯について、岐阜県多治見市の特徴と共に述べる。

まず初めに、マンガ『やくならマグカップも』誕

生の経緯と多治見市の特色について述べる。岐阜県多治見市は岐阜県の南東に位置し、2007年に国内最高気温40.9度を記録したまちとして知られ、豊かな自然と水源に恵まれた土地として、古くからやきもの文化が栄えたまちである。多治見市で制作されるやきものは「美濃焼」と呼ばれ、多くの陶芸家も輩出している。明治から昭和初期にかけて美濃焼の陶磁器問屋が軒を連ねた本町オリバストリートや、国宝に指定されている虎渓山永保寺、全国一のモザイクタイル生産量を誇る多治見市笠原町に建てられたモザイクタイルミュージアムなど、多くの観光スポットも有するまちである。このようなまちで生まれ育った株式会社プラネット社長（当時）小池和人氏が、2010年より地域活性化に向けて構想を開始したのが、マンガ『やくならマグカップも』の発端である。小池氏は当時、東京ディズニーランドの生みの親である堀貞一郎氏の「地域活性化には新しい物語が非常に重要だ」という考えを基盤とし、まちを元気にしようというプロジェクトの一環として、多治見市にゆかりのあるワインを輸入したり、堀氏と多治見の童話を創ったりなど、物語に関する活動を行っていた。その後小池氏は、「日本が世界に誇るマンガ文化で若者をターゲットにするのはど

うか」と考え、2011年にはストーリー展開のあるマンガを全国に展開するという構想に至った。議論を重ねた結果、同年に作品舞台が地元である岐阜県多治見市の陶芸マンガ『やくならマグカップも』が誕生した。マンガ『やくならマグカップも』誕生後、継続的な活動を可能にするために「元気な多治見株式会社」を設立し、2012年に第1号の『やくならマグカップも』フリーコミックが発刊された。フリーコミック発刊後、『やくならマグカップも』を活用したコラボレーション商品の開発や、『やくならマグカップも』英語版サイトの開設・フリーコミックの英語版配信、多治見自警団とのコラボレーションなどを通し、活動を続けてきた。以上がマンガ『やくならマグカップも』誕生の経緯である。

次に、『やくならマグカップも』アニメ化の経緯について述べる。アニメ化の発端は、日本アニメーション株式会社の企画コンペティションからである。多治見市出身であった当時の社員が『やくならマグカップも』フリーコミックのアニメ化を提案したところ、面白い企画だとして、企画が採用されることとなった。株式会社プラネット小池氏と日本アニメーション株式会社が協議を重ねる中で、自治体や観光協会をはじめとする地元組織とともに『やくならマグカップも』を盛り上げたいという考えに至り、多治見市に提案をした。多治見市はこれに賛同し、自治体を組み込んだアニメ化プロジェクトが始動した。2020年8月にはやくならマグカップも活用推進協議会が発足され、2021年にはアニメ第1期、2期の放送がされた。以上が『やくならマグカップも』アニメ化の経緯である。また、アニメ化に際して特徴的な点である、前半が本編アニメと後半が実写の構成になった経緯についても述べる。制作段階において、多治見市にロケハンに訪れていた制作スタッフが多治見市の人と関わるうちに、実写でも多治見市を広めたいと考えるようになり、後半を実写としてPRするという構成をするに至った。

マンガ『やくならマグカップも』誕生とアニメ化は、株式会社プラネット小池氏の地元活性化に向けた取り組みの元マンガが誕生し、日本アニメーション株式会社、地元企業や自治体に関わることによってアニメ化がされた作品であるといえる。

2 『やくならマグカップも』振興における体制について

本節では、やくならマグカップも振興における体制・役割、活動について述べる。前述したとおり、2020年8月に「やくならマグカップも活用推進協議会」が発足され、現在でも協議会は運営されている。

まず初めに、やくならマグカップも活用推進協議会の組織・役割について述べる。やくならマグカップも活用推進協議会構成組織は、一般社団法人多治見市観光協会（会長）、多治見商工会議所（副会長）、笠原商工会（副会長）、美濃焼振興協会（理事）、岐阜県陶磁器工業協同組合連合会（理事）、東濃信用金庫（監事）、十六銀行多治見支店（監事）とし、顧問として衆議院議員、多治見市議会、岐阜県議会議員、岐阜県東濃事務所、エグゼクティブアドバイザーとして株式会社プラネット、アドバイザーとして『やくならマグカップも』製作委員会、そして多治見市が関わる組織である。やくならマグカップも活用推進協議会は、アニメを使ったシティプロモーションを展開すること、アニメを活用した地元企業、地場産業と連携した商品化への取り組み、多治見市内外での関連イベントにて、多治見市や作品についてのプロモーションをすることなどを目的とし、発足されたものである。協議会の財源については、多治見市による負担金から成り、年度によっては県などの補助金が追加される場合がある。

次に、2021年度、2022年度そして現在までの活用推進協議会の活動について述べる。2021年度の取り組みとしては、

- ①「やくならマグカップも 二番窯」10月スタート放送記念イベント in 多治見市
- ②大型ショッピングセンターとのコラボレーションによる広報事業

以上の2点が挙げられる。①「やくならマグカップも 二番窯」10月スタート放送記念イベント in 多治見市は、2021年10月9日（土）に、パロー文化ホール（岐阜県多治見市十九田2丁目8番地）にて開催された。内容としては、『やくならマグカップも』に登場する高校生4人の声優をゲストとして、トークショーを行うものである。イベントの参加者は、一般席496名（うち県内396名、県外100名）であり県外からの参加者の中には近隣に宿泊し、イ

ベントの前後にアニメに登場する場所や、実写版の撮影が行われたロケ地などを訪れるなど、まちの賑わい創出、経済効果の向上につながる例もあった。

②大型ショッピングセンターとのコラボレーションによる広報事業は、2021年11月13日（土）、11月14日（日）に、土岐プレミアムアウトレット（岐阜県土岐市土岐ヶ丘1-2）にて行われた。内容は、土岐プレミアムアウトレット館内メープルコートにて多治見市が所有する『やくならマグカップも』のデザインをしたラッピング公用車や、等身大キャラクターパネルの展示、アニメPV放映、グッズの展示を行い、フードコートでは、アニメビジュアル横断幕、土岐プレミアムアウトレット登場のアニメ場面写の展示を行った。また、館内アナウンスでは、アニメ登場声優が『やくならマグカップも』のPRを行い、多治見駅から土岐プレミアムアウトレット間のバス案内を行った。県外からも多くの人を訪れる土岐プレミアムアウトレットで展示をすることにより、『やくならマグカップも』のさらなる周知に繋げることができたといえる。

2022年度の取り組みとしては、

①『やくならマグカップも』観光ガイドブック制作

②『やくならマグカップも』観光映像製作・配信以上の2点が挙げられる。①『やくならマグカップも』観光ガイドブック制作事業では、アニメや実写に登場した多治見市内の施設や風景、モノなどを紹介するガイドブックを紙面にて5,000部作成し、市内関係施設に配布した。②『やくならマグカップも』観光映像製作・配布配信では、アニメや実写に登場した映像を活用し、多治見市のPR映像を10本制作した。動画サイトYouTubeにて配信を行い、10本の動画の総再生回数は7,500回を超えている¹。2023年についても『やくならマグカップも』を活用し、多治見市の魅力を広め、観光誘客を行い、交流人口の拡大と地域経済の活性化及び美濃焼の産業と文化の振興を目的として、事業を進める予定である。

加えて、『やくならマグカップも活用推進協議会』事業以外における多治見市の取り組みについて述べ

る。多治見市では『やくならマグカップも活用推進協議会』の他に別途予算要求を行い、『やくならマグカップも』の活用を努めてきた。活用例としては、先ほど述べた「やくならマグカップもラッピング公用車」や、多治見市が主催する全国の高校生を対象としたやきものコンテストである「全国やきもの甲子園」における「やくも賞」の設定、2022年11月27日（日）には多治見市産業文化センターにて、日本アニメーション株式会社メディア部部长である井上孝史氏を招き「やくならマグカップも放送記念1周年特別講演会 アニメ×地域振興～やくも放送までの軌跡～」などを行った。その他アニメ関連のイベントに参加するなど、多治見市としても精力的に推進を行っている。今後は、アニメ『やくならマグカップも』第三期の製作に向けて、一層推進に力を入れていきたいと考えている。以上が、『やくならマグカップも』振興における体制である。

3 マンガ・テレビアニメを活用することの可能性と課題について

本節では、マンガ・テレビアニメ『やくならマグカップも』を活用することによる可能性と課題について筆者の意見を述べる。筆者は、誘客において重要なのは「知る」機会があることだと考える。アニメの一般化により、アニメを見るハードルは下がり、人の目に留まる機会は増えた。加えて、『聖地巡礼』という単語が普及した現在において、聖地を回ることに対するハードルは低い。アニメ制作段階から自治体関わった『やくならマグカップも』は、アニメ作品として成立する傍ら、地域PRアニメとしても成立する作品である。そしてアニメ後半の実写パートでは、声優が実際のまちを回遊する。このことから、アニメにおける市内回遊だけではなく、より現実に沿った回遊イメージを視聴者が持つことができる。閲覧することによって多治見市を知り、回遊するきっかけを与えることができることが、マンガ・テレビアニメを活用することの可能性である。加えて、SNSが普及したことにより、情報が随時更新され、流れていく今日では、一目を置くビジュアルを持つコンテンツを有することは重要であると

1 2023年7月22日現在。

考える。以上のことから、マンガ・アニメを活用したツーリズムは、重要な財源になると考えられる。

また、本市における『やくならマグカップも』活用の課題について述べる。筆者は、『やくならマグカップも』をどのように持続していくのかという点が課題だと考える。今日まで、やくならマグカップも活用推進協議会や多治見市、株式会社プラネットを中心に行ってきた地域振興であるが、「これから何をしていくのか」という問題は常に存在する。『やくならマグカップも』を活用した地域振興には、地域住民からの更なる支持が大切である。そのために、やくならマグカップも活用推進協議会と共に議論を重ね、さまざまな仕掛けを打ち出したいと考えている。

参考文献

- ・株式会社プラネット「やくならマグカップも」
<http://www.dentalx.jp/yakumo.html>（最終閲覧日：2023年7月25日）。
- ・多治見市モザイクタイルミュージアム「多治見市モザイクタイルミュージアムとは」<https://www.mosaictile-museum.jp/>（最終閲覧日：2023年7月25日）。
- ・一般社団法人多治見市観光協会「多治見ってどんな街？」<https://tajimi-pr.jp/whats-tajimi-town>（最終閲覧日：2023年7月25日）。
- ・やくならマグカップも「キャラクター紹介」
<http://yakumo-tajimi.com/character/01.html>（最終閲覧日：2023年7月25日）。
- ・プラネット・日本アニメーション/やくならマグカップも製作委員会（2023）『やくもさんぽ』pp. 2 - 5。